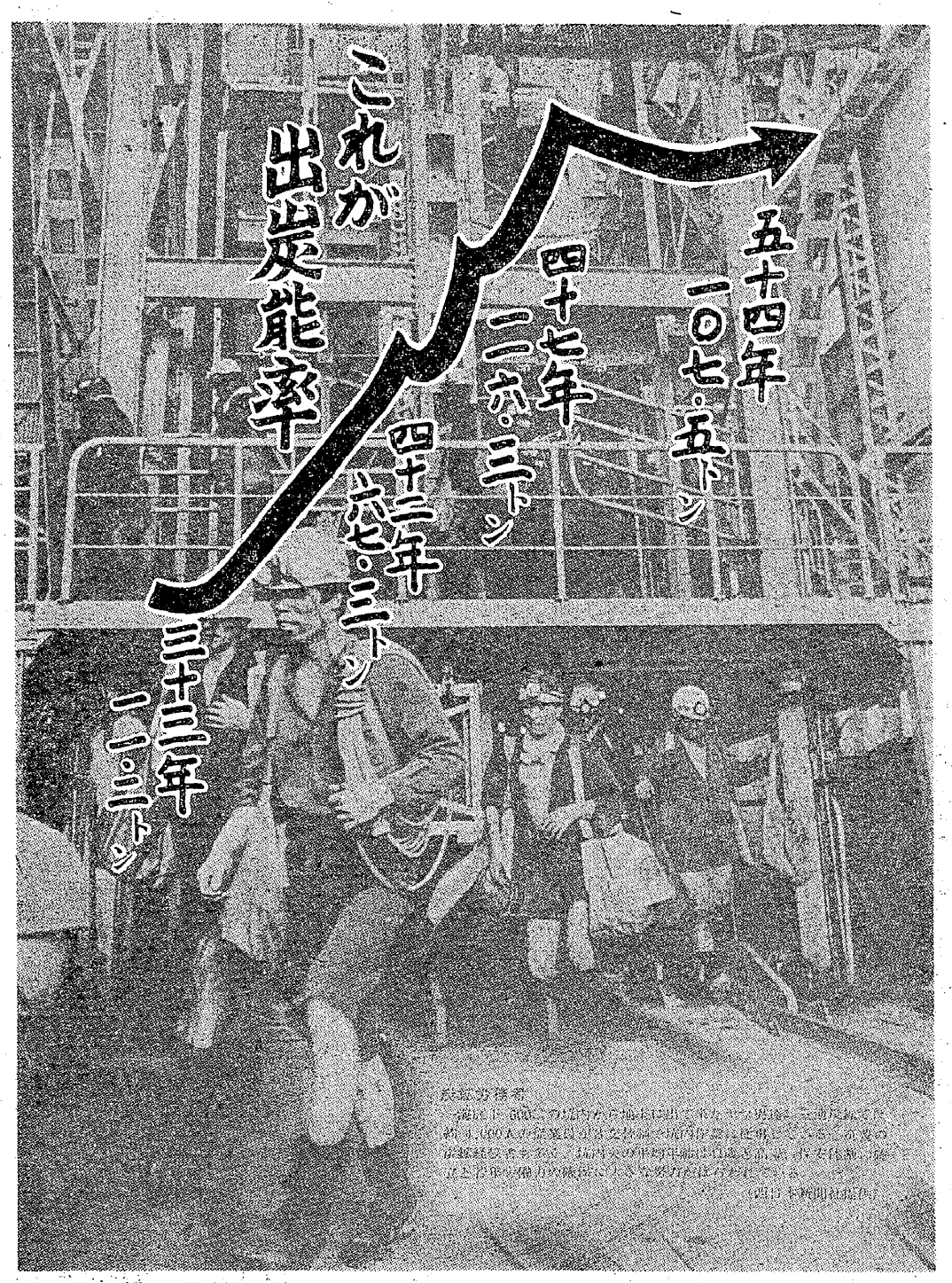
会社、福利要求聞かず



写真は〝福岡県産炭地域の現状〟（昭和53年福岡県発行のパンフレット）から取つたが、次のような説明がある。「海底下600メートルの坑内から地上に出てきたヤマ男たち。三池炭鉱では約4,000人の従業員が、3交代制で坑内作業に従事している……」。

国からの補助59億円

出炭能率も急上昇なのに

今年も会社は、三池労組をはじめ三池新労組、砂川・芦別など炭鉱労働者の生活環境や、余りにもひどい労働条件などの改善・向上をめざす要求を、昨年に輪をかけた逆提案などを押しつけることによって踏みにじった。春闘への資本のかまえの度合いをものがたっているが、労働協約・福利厚生に関する要求は聞かれなかったのである。口実は、電気料金の値上がりなど、石炭産業をつつむ情勢の悪化、経営赤字、といつもの通りのことだったが、ふとるのはいよいよ資本ばかり。

能率は急上昇

会社は経営赤字や情勢悪化などいつも通りの口実で、三池炭鉱労働者の労働協約、福利厚生に関する要求と同時に、賃金改善など春闘要求までおさえるかまえをむき出しにしてきた。

事実は、出炭能率の急上昇、国の財政からの各種助成の獲得、海外炭開発など諸事業への資本進出に見るように、資本だけがふとっていくばかり。

三池炭鉱の出炭能率（労働者一人月出炭額）は、三池闘争前に一一・二トンだったのが、三池闘争を過ぎると、たとえば四十二年に六七・三トン、四十七年になると何と一一六・三トンと一〇〇トン台突破。坑内の自然条件が比較的に悪い現在（五十四年度）でさえ一〇七・五トンを示している。あの三池大爆発（三十八年十一月九日）で、四百五十八人という大量の犠牲者を出したことなどどこ吹く風、といわんばかり。

政府補助獲得

会社（三池炭鉱に限る）は、生産予算から推定すると、昭和五十四年度だけで推定（以下同）総額約五十九億千四百四十二万円にのぼる補助を手に入れた。約二十八億四千万円の出炭補助金と、約三十九億九千万円という掘進補助金である。

このほか、保安確保事業費補助（たとえば先進ボーリングにボーリング座掘削、部分充てん仕繰拡大、密閉その他）五五%から七五%。保安専用機器補助（ガス自動警報装置、集中監視装置、自己救命器、簡易救命器、坑内切羽照明用具、防爆電灯、坑内冷房装置などいろいろ）七五%。さらに石炭鉱生産体制改善対策費そのほか、もろもろの対策に補助がついてまわる仕組み。

資本は海外へ

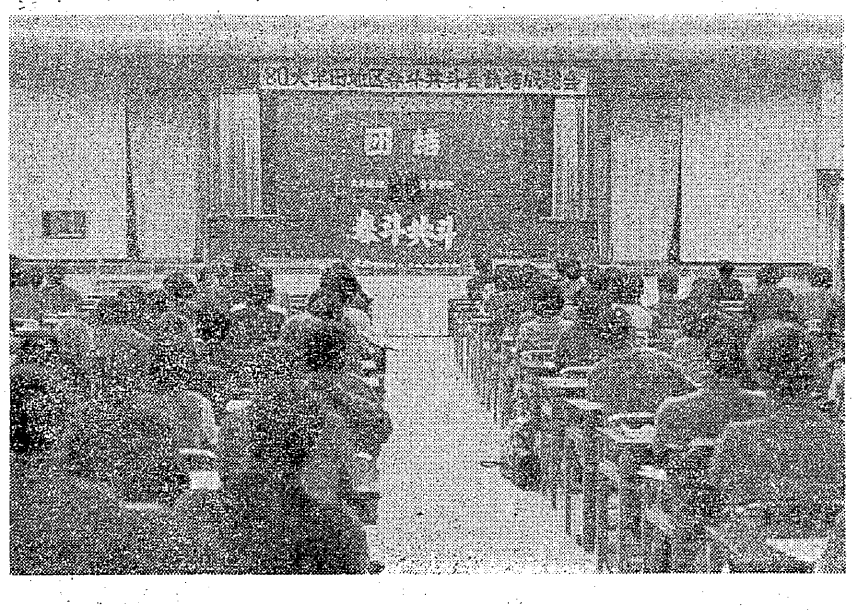
近年、三井石炭のカナダやオーストラリアなどへの、安い石炭を求めての資本進出もめざましい。

炭労が昨年発行したパンフレット〝オーストラリアの石炭事業〟によれば、三井石炭を柱とする系列資本参加が読みとれる炭鉱で、モーラ（稼動）、ネボー（企業化中）、ミルメラン（同上）などがある。

カナダのパルマーにも関係炭田があるが、説明する資料が今のところ少い。

×

労働者の労働協約、福利厚生要求をふみにじり、春闘への歩みの前に資本が大きく立ちふさがろうとしているとき、果たして以上の事実は何を語りかけているか。



いよいよ春闘

大牟田で共闘発足

さきほど、大牟田で八〇年大牟田地区春闘共闘会議が発足した。

結成総会は一月二十九日労働福祉会館で開催され、この日はとくに太田薫・前合化労連委員長を招いてその講演を聞いたが、「今こそ労働組合をつくった原点にかえり組合員大衆の要求を基礎に運動を展開し、闘うことだ」との呼びかけに、深く耳を傾けた。

公共料金など大幅値上げが迫っただけに、春闘への労働者の気組みが日ましに加わっている。

こんなカラクリが

トン当り450円の補給金

▼…ここに、会社のもうけぶりの一端を示すカラクリがある。

二月二十五日発行の社内報〝くろだいや新聞〟は、その一面トップに「出炭三池鉱業所新記録出る」として、三池炭鉱が同月十五日に二万五千百四十二トンの石炭を出したことを伝えた。

出炭には、石炭を一トン掘ればちゃんと国から四百五十円もの安定補給金がつくことになっている。だから右の出炭から、当然次の算式が成り立つ。

25,942トン×450円

結果は、労働者が命がけで働いたおかげで、資本のフトコロには一千百六十七万三千九百円という金が飛びこんでくる。

そのなかから、さて労働者にまわってくる分があるものやら？

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話（53）3033番
（53）3034番
編集兼発行人　前川哲也
半年間1,200円・送料共

裁判公判日程

大災害裁判公判　五月十六日午前十時から福岡地裁で。原告の証言を終り、いよいよ会社側弁護士による反対尋問へ。

九・二八　坑内火災裁判公判　五月二十一日午後一時十分から福岡地裁で。吉田曙病院長に対する、会社側弁護士による反対尋問予定。

上村裁判　裁判所の和解勧告にもとずき、現在話し合い進行中。